

カキ中間台木の特徴

福島県農業試験場会津地域研究支場
平成14～16年度試験研究成績概要

1 部門名

果樹－カキ－形態・生育相
分類コード 04-05-05000000

2 担当者

勝又治男・野上紀恵・永山宏一

3 要 旨

1995年にカキ「西村早生」実生の地上10cmの位置で中間台木を切り接ぎ、翌年中間台木に「会津身不知」を切り接ぎし、「会津身不知」に対する中間台木の特性を検討した。試験区の中間台木と長さは「舎谷柿」実生が20cmと30cm、「小枝柿」15cm、「しだれ柿」15cmで、対照区は「西村早生」実生に「会津身不知」を切り接ぎ、翌年切り戻した。各中間台木の特徴は以下のとおりである。

- (1) 「舎谷柿」実生20cm及び30cmは樹高及び樹冠容積が対照区より小さくわい化効果が認められた。生産効率(幹断面積当たりの収量)は「小枝柿」、「しだれ柿」より劣った。果実は対照区より大きく、着色は対照区に次いで優れていたが、汚染が多かった。対照区は欠木が認められなかったが、「舎谷柿」は衰弱や強風による倒伏で供試樹の1/3が欠木となった。
- (2) 「小枝柿」の樹高及び樹冠容積は対照区を上回り、生産効率が最も高かった。果実の条紋や汚染の発生は少なかったが、果実は対照区より小さく、着色は不良で熟期が遅かった。
- (3) 「しだれ柿」の樹高及び樹冠容積は対照区と同程度で、生産効率は「小枝柿」に次いで高かった。果実の大きさは対照区と同程度で汚染は「小枝柿」に次いで少なかったが、着色は対照区よりやや劣った。生育のばらつきが大きく、供試樹の1/3が欠木となった。

4 その他の資料等

なし